フィールド（現場）からの風 507

宮田守男

平和への取組を実行しよう

8月は過去に侵した戦争行為を新聞報道やテレビ映像で考えさせられる貴重な時間でもある。第1回広島平和音楽祭で圧倒的な歌唱力で平和への祈りを込めた「一本の鉛筆」の曲を美空ひばりさんが披露した。「一本の鉛筆があれば、戦争はいやだと私は書く」「一枚のザラ紙があれば、あなたをかえしてと私は書く」の歌詞は戦争を体験した事のない私たちに強いメッセージが伝わってくる。

いま現実的に原子力発電所施設に砲弾が撃ち込まれた情報が、世界各地の原子力施設設置地域に衝撃的な恐怖感を抱かせている。他人事のように戦争を考えるのではなく、「一本の鉛筆」でなくても今私たちに与えられている情報社会で、平和への取り組みをしてみようと強く思う。

コロナ感染者が多発中でも、行動制限の無い日常が現実化して全国各地がにぎわった。だが医療現場では医療崩壊状態との悲痛な現状が伝わってくる。改めてコロナに立ち向かう関係者にナイチンゲールの言葉「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために戦うものである」を贈りたい。規制によるコロナ感染対策と経済対策の戦いは続いて行くのだろうが、現場の関係者に多様な支援策を継続的に展開して一層の取り組みを期待して行きたい。

台風8号が本土に上陸し各地で甚大な被害が発生した。今回も伊豆諸島北部で発達した積乱雲が次々と連なって大雨をもたらす「線状降水帯」が確認されたとして「顕著な大雨に関する情報」が発表された。「顕著な大雨に関する情報」は、発達した積乱雲が帯状に連なる線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所に降り続いて土砂災害や洪水の危険性が高まった時に発表される。8月初旬には東北初の「線状降水帯」情報が出され、数十年に一度の豪雨の危険を示す「大雨特別警報」が発令、線状降水帯が発生した地域では観測史上最多の降水量記録が続出し最上川などの河川の氾濫映像に心が痛んだ。

最高気温40度以上を「酷暑日」、夜間の最低気温30度以上を「超熱帯夜」などの気象の実態に合わせた新呼称が続出し、今後も異常気象の多発が、俳句などの微妙な季節感の変化を大事にしてきた日本文化の将来を危惧すると毎日新聞のコラム余禄さんの指摘が今を的確に捉えているのだろう。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

農地の一画に植栽された「芙蓉」一人一人の活動が地域内を輝かせている